



環境目標と実績

中期環境目標(2016～2018年度)の策定

東京メトログループでは新たに2016年度から2018年度までの3か年で取り組む中期環境目標について、下表のとおり策定しました。「みんなでECO.」において掲げた3つのテーマに基づき、実施項目・目標・取組などを設定し計画的に活動を進め

ていきます。

東京メトログループはこれからも、環境目標の達成に向けた活動に取り組み、地球環境の保全に貢献していきます。

▶中期環境目標(2016～2018年度)

実施項目	目標
車両走行キロ当たり電食用電力使用量の低減	2018年度に2009年度比で 2.5%低減
グリーン購入の推進	実施率 98.0%以上 の維持
コピー用紙使用量の削減	2018年度のコピー用紙の総使用量を2010～2012年度総使用量から 3%削減
廃棄物のリサイクル推進	一般廃棄物・産業廃棄物のリサイクル率 92.5%以上達成
建設副産物のリサイクル推進	建設発生土、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊のリサイクル率 100%達成

▶中期環境目標(2016～2018年度)の主な取組

「みんなでECO.」 3つのテーマ	実施項目	主な取組
東京メトロ 自らのエコ化	地球温暖化防止	
	鉄道事業の省エネ化	<ul style="list-style-type: none"> ●環境配慮型車両の導入：銀座線、丸ノ内線、日比谷線及び千代田線に新造車両を導入するほか、東西線及び南北線で車両更新を実施（銀座線・丸ノ内線・日比谷線・千代田線の新造車両及び東西線の更新車両にPMSM（永久磁石同期モータ）を導入） ●駅構内照明や車内照明、駅サインシステムのLED化：車内や駅構内の照明にLED照明を順次導入するほか、各駅のサインシステムや駅出入口シンボルマーク（ハートM）についてもLED内照式のものに順次更新
	関連事業の省エネ化	●広告用看板のLED化：広告用看板をLED内照式のものに順次更新
	事務オフィスの省エネ化	●省エネ活動の推進◆：照明機器や空調の適正管理などの省エネ活動を継続
	再生可能エネルギーの活用	●太陽光発電システムの導入：四ツ谷駅に太陽光発電システムを導入
	廃棄物の削減・資源消費の削減	
	環境にやさしい物品の使用	●グリーン購入の推進：事務用品などの購入時に環境にやさしい物品を購入
	資源の効率的な使用	<ul style="list-style-type: none"> ●コピー用紙の使用量削減◆：紙資源の効率的な使用による紙使用量の削減 ●車両自動洗浄機での再利用水の活用：検車区・工場の車両自動洗浄機において、再利用水を活用
	リサイクル、リユースの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物管理の推進◆：事務所ゴミの分別収集徹底、リサイクルの促進を実施 ●建設副産物のリサイクル：建設工事に伴い発生する建設発生土、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設泥土のリサイクルを実施
	騒音・振動の低減	
	騒音・振動の低減	●防振まくらぎの敷設やロングレール化の推進などを継続
	環境汚染の予防	
	環境汚染の予防	●PCB廃棄物の適正処理や車両アスベストの除去などを継続
東京メトロを 使ってエコ	公共交通の利用促進	
	円滑な移動の実現	●エレベーターやエスカレーター、多機能トイレ整備により駅施設のバリアフリー化を推進するほか、ICカード需要の拡大に伴いPASMO専用改札機を導入
	環境負荷の少ない地下鉄の利用促進	●沿線ウォーキング・スタンプラリーをはじめとするイベントを実施
	情報発信ツールを活用した適時適切な情報の提供	●情報発信ツールの活用により、駅や車内において適時適切な情報を提供するほか、自動旅客案内装置の整備推進、駅構内無線LANを活用した情報配信サービスを実施
沿線地域とエコ	地域連携による環境保全	
	沿線地域と連携した環境保全活動の実施	●沿線の皆様とのコミュニケーションを通じて、沿線地域の環境負荷低減に向けた取組を推進
3つのテーマ 共通	環境関連法規制の遵守	
	環境関連法規制の遵守◆	●省エネ法や東京都環境確保条例などの環境関連法規制に適切に対応
	環境意識の啓発	
	環境教育の実施◆	●社員への環境教育を継続
	環境保全活動に関する情報発信	●「みんなでECO.」の展開や社会環境報告書の発行などにより、東京メトロの環境への取組をPR

◆マークの目標については、東京メトログループ各社においても共通目標を設定しています。

中期環境目標 (2013～2015年度) に対する2015年度実績及び3か年の総括

2013年度から2015年度までの中期環境目標に対する2015年度及び3か年の実績は以下のとおりとなりました。5項目のうち4項目で目標を達成した一方、「コピー用紙使用量の削減」では総使用量を531.5tから529.3tへと若干ながら削減できたものの、残念ながら目標を達成するには至りませんでした。

▶ 中期環境目標 (2013～2015年度)

評価：◎は目標を大きく達成、○は達成、×は未達成

実施項目	目標	評価	実績
車両走行キロ当たり電車で電力使用量	2015年度に2009年度比で 1%低減(2009年度 2.00kWh/C・km)	◎	1.96kWh/C・km ➡ 2009年度比2%減
グリーン購入の推進	実施率 97.5%以上 の維持	◎	2013年度：98.6%/2014年度：98.2%/2015年度：99.4%
コピー用紙使用量の削減	2015年度のコピー用紙の総使用量を2010～2012年度総使用量から 3%削減	×	101.1% ➡ 目標値比1.1%増
廃棄物のリサイクル推進	一般廃棄物・産業廃棄物のリサイクル率 90%以上達成	◎	2013年度：93.4%/2014年度：91.3%/2015年度：95.6%
建設副産物のリサイクル推進	建設発生土、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊のリサイクル率 100%達成	◎	2013年度：100%/2014年度：100%/2015年度：100%

▶ 中期環境目標 (2013～2015年度) の主な取組と2015年度実績

評価：◎は目標を大きく達成、○は達成、×は未達成

「みんなでECO」3つのテーマ	実施項目	評価	中期環境目標に対する2015年度の実績	2015年度の実績及び主要実施項目	
東京メトロ 自らのエコ化	地球温暖化防止				
	鉄道事業の省エネ化	環境配慮型車両の導入	○	車両走行キロ当たり電車で電力使用量の低減 1.96kWh/C・km ➡ 2009年度比2%減	● 新造車両17編成130両を導入、既存車両2編成20両の制御装置を更新。うち1編成10両には永久磁石同期モータ (PMSM) を導入
		駅構内照明や車内照明 駅サインシステムのLED化	◎	● 車両車内84編成662両、駅構内25駅にLED照明を導入したほか、各駅のサインシステムや各駅の出入り口サインマーク (ハートM) についてもLED内照式のものに順次更新	
	関連事業の省エネ化	広告用看板のLED化	◎	● 1,319面の広告用看板をLED内照式のものに順次更新	
	事務オフィスの省エネ化	省エネ活動の推進 ◆	◎	● 照明機器や空調の適正管理などの省エネ活動を継続	
	廃棄物の削減・資源消費の削減				
	環境にやさしい物品の使用	グリーン購入の推進	◎	実施率 99.4%	● 事務用品などの購入時に環境にやさしい物品を購入
	資源の効率的な使用	コピー用紙の使用量の削減 ◆	◎	2015年度目標値比 3.0%削減	● 紙資源の効率的な使用による紙使用量の削減
		車両自動洗浄機での再利用水の活用	◎	● 検車区・工場の車両自動洗浄機において、再利用水を活用	
	リサイクル、リユースの推進	廃棄物管理の推進 ◆	◎	リサイクル率 95.6%	● 事務所ゴミの分別収集徹底、リサイクルの促進を実施
		建設副産物のリサイクル	◎	リサイクル率 100%	● 建設工事に伴い発生する建設発生土、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設泥土のリサイクルを実施
	騒音・振動の低減				
	騒音・振動の低減	防振まくらぎの敷設促進	○	● 防振まくらぎを1,196m敷設やロングレール化の推進などを継続	
環境汚染の予防					
環境汚染の予防	PCB廃棄物の適正処理・厳正管理	×	● PCB廃棄物の適正処理や車両アスベストの除去などを継続		
東京メトロを 使ってエコ	公共交通の利用促進				
	円滑な移動の実現	エレベーター エスカレーター 多機能トイレ整備の推進 PASMO専用改札機の導入	◎	● エレベーター (2駅)・エスカレーター (3駅)・多機能トイレ (8駅) 整備により駅施設のバリアフリー化を推進、ICカード需要の拡大に伴いPASMO専用改札機 (77通路) を導入	
	環境負荷の少ない地下鉄の利用促進	自然や街並みを体験できるイベントの開催	◎	● 沿線ウォーキング・スタンプラリーをはじめとする「鉄道でエコ」型イベントを実施	
	情報発信ツールを活用した適時適切な情報の提供		◎	● 情報発信ツールの活用により、駅や車内において適時適切な情報を提供するほか、自動旅客案内装置の整備推進、駅構内無線LANを活用した情報配信サービスを実施	
沿線地域とエコ	地域連携による環境保全				
	沿線地域と連携した環境保全活動の実施		◎	● 沿線の皆様とのコミュニケーションを通じて、沿線地域の環境負荷低減に向けた取組を推進	
3つのテーマ 共通	環境関連法規制の遵守				
	環境関連法規制の遵守 ◆		◎	● 省エネ法や東京都環境確保条例などの環境関連法規制に適切に対応	
	環境意識の啓発				
	環境教育の実施 ◆		○	● 社員への環境教育を継続	
	環境保全活動に関する情報発信		◎	● 「みんなでECO」の展開や社会環境報告書の発行などにより、東京メトロの環境への取組をPR	

◆マークの目標については、東京メトログループ各社においても共通目標を設定しています。

環境コンプライアンス

□ 省エネルギー法への対応

鉄道事業については、2007年度から特定輸送事業者として、エネルギー消費低減のための中長期計画書と定期報告書を国土交通省に提出しています。また、鉄道事業を除いた事業全体につい

ても、2010年施行の改正省エネルギー法に基づき、東京メトロ及び対象となる一部グループ会社において報告を取りまとめ、中長期計画書と定期報告書を経済産業省に提出しています。

□ 東京都環境確保条例への対応

2009年の条例改正に伴い新たに創設された「地球温暖化対策報告書制度」の報告対象に、東京メトロが所有する中小規模事業所27物件が該当することから、各事業所のエネルギー使用量及び省エネルギー対策を取りまとめ、東京都に提出しています。

また、大規模事業所を対象とした「温室効果ガス排出総量削減義務と排出量取引制度」については、株式会社地下鉄ビルディングが該当しており、温室効果ガス削減に向けた施策に取り組んでいます。

□ 建設リサイクル法への対応

駅などの改良工事で発生する建設副産物については、分別・再資源化が義務づけられています。2015年度における同法の

対象工事については、リサイクルを進めています。

*詳細については、P.41「建設副産物のリサイクル」をご参照ください。

□ アスベストの適正処理

過去に製造された一部車両の断熱材に微量に含まれるアスベストや、一部の建物内に含まれるアスベストは、封じ込め対策を実施し、適正に管理しています。また、車両を廃棄するときには、石綿障害予防規則などに基づき、飛散防止処置として密閉

空間で隔離処理し、アスベスト含有品を撤廃した上で解体処理を行っています。なお、新たにアスベストが発見された場合は、法令に基づき適正に処理をします。

□ PCB廃棄物の厳正管理・適正処理

PCB*は人体に悪影響があることから、PCBを使用したコンデンサや安定器など約7万台の使用を停止し、廃棄物として厳正に保管しています。また、PCB特別措置法に基づいて必要な毎年度の届出を実施し、可能な限り早期の処理を目指しています。

2015年度は実績がありませんでしたが、指定工場にて、PCBを使用した器具の処理をするほか、保管品については状況確認と分別を実施し、厳正管理が継続できていることを確認しています。

*PCB:ポリ塩化ビフェニル (Poly Chlorinated Biphenyl)

□ フロン類の回収

駅構内及び車両用冷房装置で使用している冷媒については、オゾン層保護法に規定される施設などの指定フロンから代替フロンへ更新しています。

2015年度は、駅施設などの冷房装置183台、車両冷房装置

480台(総計663台)の冷房装置を更新したため、これに伴い廃棄された冷房装置から回収したフロン類や現在使用中の機器については、フロン排出抑制法に基づき、厳正に管理しています。

環境教育による啓発

より良い環境保全活動に取り組むためには、その活動主体である社員一人ひとりの意識向上が欠かせません。各部門の環境管理者・環境推進者、新任の管理職や新入社員、グループ会社社員を対象に、様々な機会でも多くの社員へ環境教育を実施し、環境保全に関する意識の浸透を図っています。2015年度は、環境管理者・環境推進者を対象とした「エコリーダー・エコスタッフ研修」をはじめ、新入社員研修やグループ会社社員に対する社会環境報告書の報告会などで計432名に環境教育を実施しました。

▶ 環境教育の実施状況(2015年度)

開催月	講座名	受講者数	対象者
2015年4月	新入社員研修	24名	東京メトロの新入社員(総合職)
2015年5月	エコリーダー・エコスタッフ研修	105名	各部門の環境管理者(エコリーダー)、環境推進者(エコスタッフ)
2015年6月	鉄道総合技術アカデミー「企業活動における環境保全」	27名	営業部・運転部・車両部・工務部・改良建設部・電気部の社員・グループ会社社員
2016年1月~3月	社会環境報告書2015報告会(グループ会社)	191名	東京メトログループ各社の環境担当者など
2016年3月	改良建設部2015年度ISO報告会	85名	改良建設部及び工務部の社員、グループ会社社員及び改良工事関係者